

# 亀姫ゆかりの加納城と城下町の面影残る中山道 “歴史の宝箱” 加納ぶらり旅

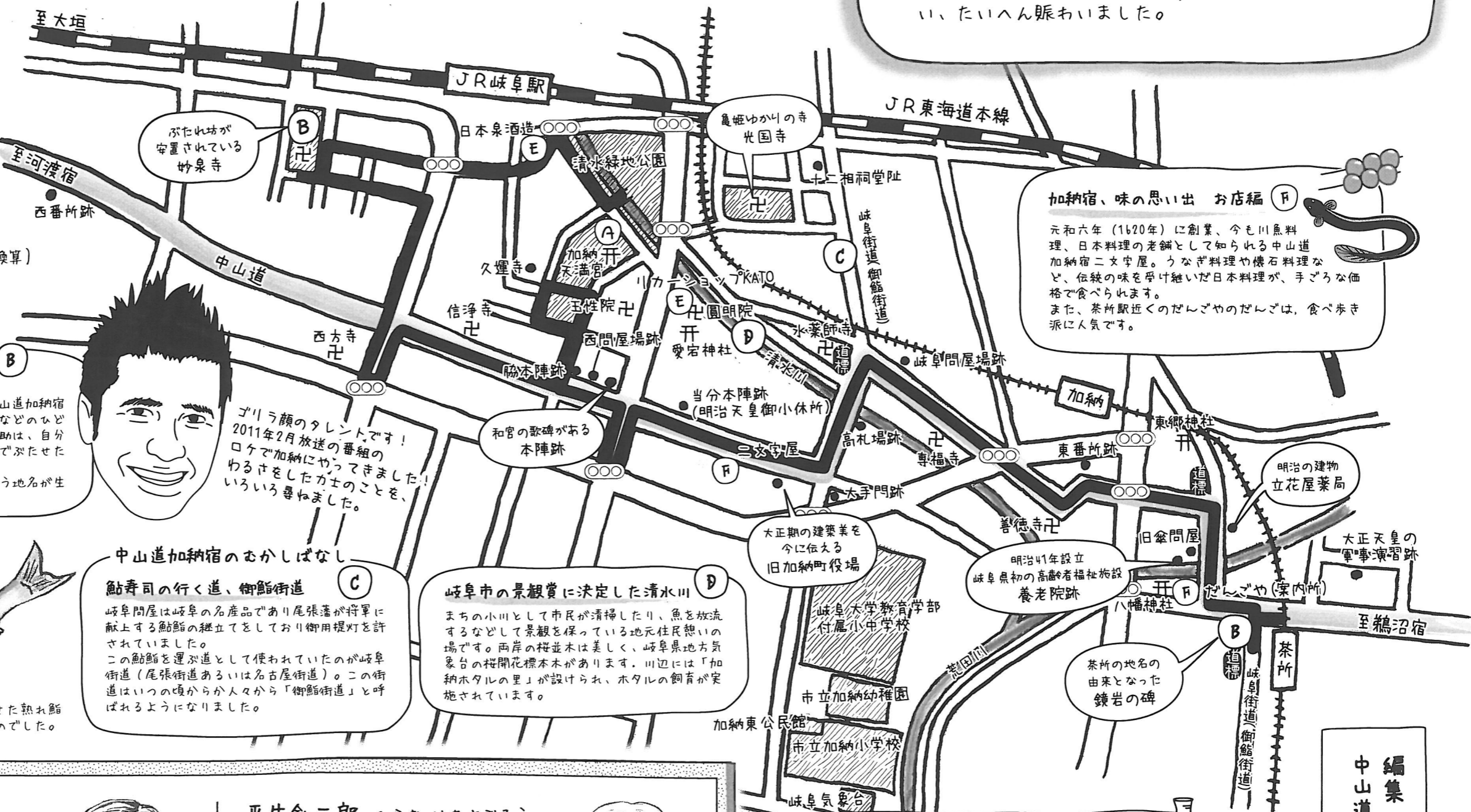
中山道  
コース

中山道加納宿のはなし  
加納宿付近は、古くより東海道に並ぶ主要街道・中山道の要衝として栄えてきました。慶長6年(1601年)岐阜城の廃城に代わり加納城が築城され、宿場は城下町としての役割も兼ね発展。中山道六十九次の中では、本庄宿、高宮宿、熊谷宿、高崎宿に次ぐ大宿であったとされ、献上品の鮎鮓をはじめ、多くの人や馬、物資が頻りに行き交い、たいへん賑わいました。

## 中山道コースデータ

宿場町、城下町の二つの顔が見られる加納。特に中山道沿いは由緒ある史跡に恵まれています。また、脇道にもおもしろい見どころがあるので、宝探し気分がぶらぶらしてみましよう！

■全長 約3.3km (徒歩 約41分 時速4km換算)  
スタート/清水緑地公園  
ゴール/名鉄「茶所」駅



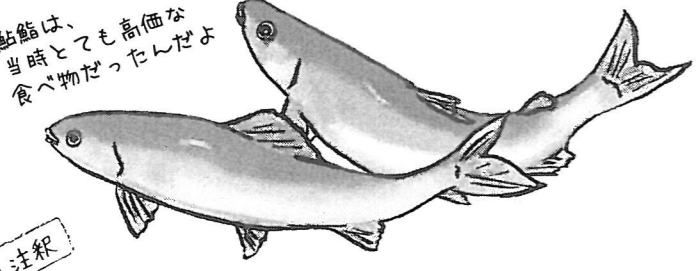
加納宿、味の思い出 お店編 (F)  
元和六年(1620年)に創業、今も川魚料理、日本料理の老舗として知られる中山道加納宿二文字屋。うなぎ料理や焼石料理など、伝統の味を受け継いだ日本料理が、手ごろな価格で食べられます。また、茶所駅近くのだんごやのだんごは、食べ歩き派に人気です。

## 中山道加納宿のむかしはなし

ぶたれ坊こと江戸時代の力士、二代目鏡岩  
江戸時代の力士、二代目鏡岩源文助は力士を引退後、中山道加納宿に寺院を建て茶屋を営んでいました。奉公人をこき使うなどのひどく粗暴なふるまいを、和尚にいさめられて改心した源文助は、自分と同じ大きさの木像を作り、罪滅ぼしのために旅人に棒でぶたせたそうです。ぶたれた旅人にはお茶を振る舞ったことから「茶所」という地名が生まれ、茶所駅の近くには鏡岩の碑が置かれています。



ゴリラ顔のタレントです！  
2011年2月放送の番組のロケで加納にやってきました！  
ゆるけをした力士のことを、いろいろ尋ねました。



鮎鮓は、当時とても高価な食べ物だったんだよ  
鮎鮓は現代の鮎と違い、塩魚を飯とともに発酵させた熱れ鮎(なれずし)で、元来は魚の保存方法として生まれたものでした。

中山道加納宿のむかしはなし  
鮎寿司の行く道、御館街道 (C)  
岐阜問屋は岐阜の名産品であり尾張藩が將軍に献上する鮎鮓の継立てをしており御用提灯を許されていました。この鮎鮓を運ぶ道として使われていたのが岐阜街道(尾張街道あるいは名古屋街道)です。この街道はいつの間にか分人々から「御館街道」と呼ばれるようになりました。

岐阜市の景観賞に決定した清水川 (D)  
まちの小川として市民が清掃したり、魚を放流するなどして景観を保っている地元住民思いの場です。兩岸の桜並木は美しく、岐阜県地方象台の桜開花標本木があります。川辺には「加納ホテルの里」が設けられ、ホテルの飼育が実施されています。

加納の偉人  
丸尾錦作 まろお きんざく  
安政3年加納藩士の家に生まれ、東京高師を首席で卒業。その後学習院教授となり、大正天皇の学問の師として大任を務めました。また東宮侍従となり昭和天皇や秩父宮、高松宮の扶育官長として活躍しました。現在、丸尾錦作の顕彰碑が、清水川べりの遊歩道脇に建てられています。



平生鈿三郎 ひらお はちさぶろう  
実業家として活躍。甲南学園を創設するなど、教育、医療、福祉の分野に多くの足跡を残した人物です。58歳で実業界を引退し、奉仕に専念することを決意。経営危機にあった企業再建のため、実業界へ一時戻った際も、報酬を受け取らないなど奉仕の精神を貫き、その後はブラジル移民事業に注力し成功へと導きました。加納天満宮の常夜灯に名前が刻まれています。



加納宿、味の思い出 お酒編 (E)  
加納宿でお土産を買うなら、岐阜市の銘酒鮎葉子はもちろんですが、ここならではの銘酒の酒もおすすめ。日本泉酒造では『信長』や『濃姫』など、岐阜にゆかりのある人物をイメージしたお酒を製造、販売。酒蔵は予約があれば公開してもらえます。リカーショップKATOでは、『加納城』、『加納宿』といったオリジナルの日本酒を販売しています。

編集  
中山道加納宿文化保存会

# 亀姫ゆかりの加納城と城下町の面影残る中山道 “歴史の宝箱” 加納ぶらり旅

加納城  
コース

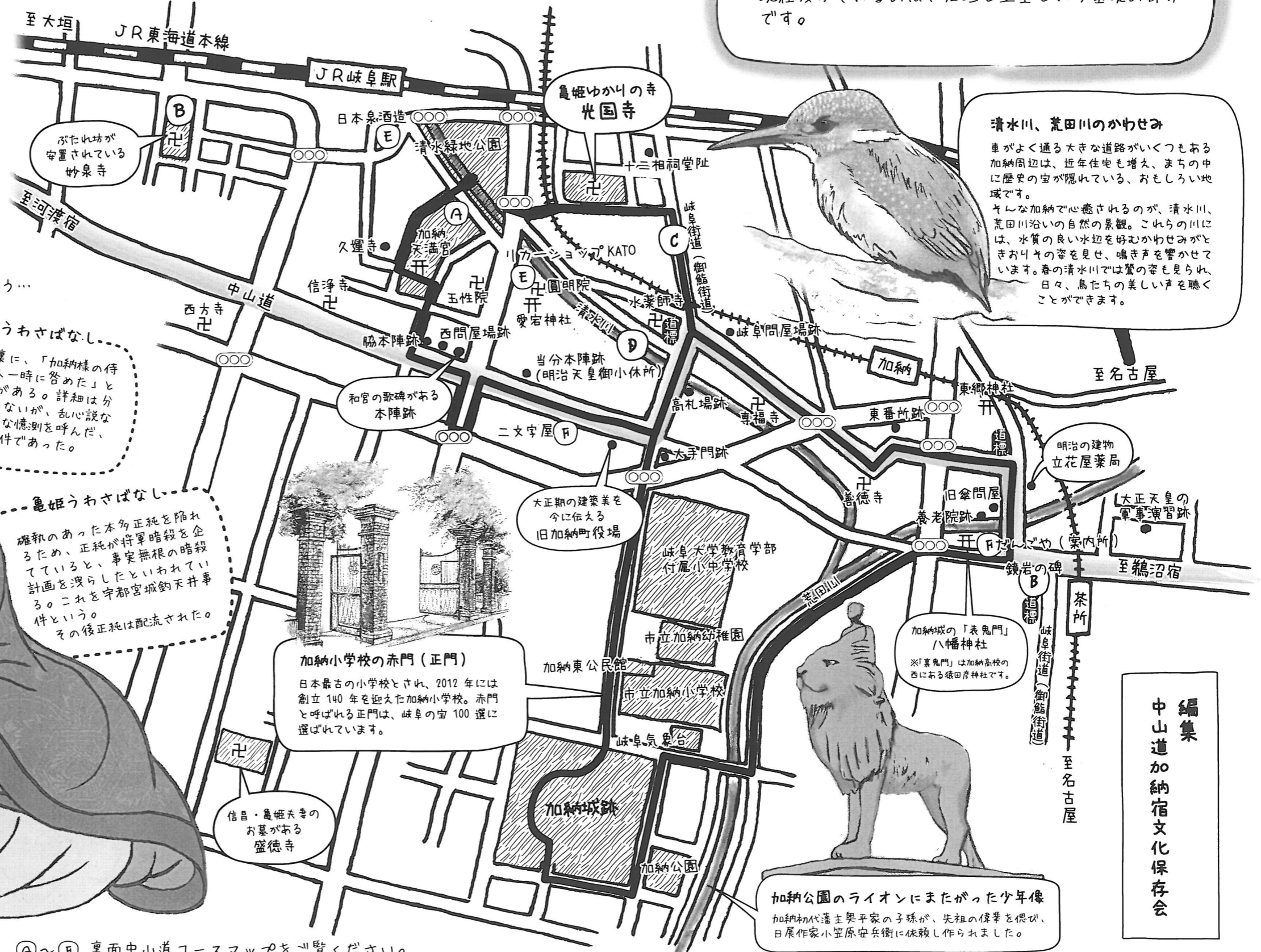
## 加納城のはなし

加納城は、家康が関ヶ原合戦後に西方を警戒し、交通の要衝を理由に築城を命じたといわれ、かつて守護代者藤氏の城跡を利用し築城されました。初代城主に奥平信昌が任せられ、その後は、大久保氏、戸田氏、安藤氏、永井氏が藩主となりました。明治維新の廃藩置県まで治世。その後解体されました。現在残っているのは、石垣と土塁という基礎の部分です。

## 加納城コースデータ

亀姫に関わりのある寺院や、夫である奥平信昌の居城・加納城跡、亀姫が本丸まで行くために船で下った荒田川沿いなどを歩きます。

■全長 約4.2km (徒歩約52分 時速4km換算)  
スタート・ゴール/清水緑地公園



## 清水川、荒田川のかわせみ

車がよく通る大きな道路がいくつもある加納周辺は、近年住宅も増え、まちの中に歴史の宝が隠れている、おもしろい地域です。そんな加納で心癒されるのが、清水川、荒田川沿いの自然の景観。これらの川には、水質の良い水辺を好むかわせみがときおりその姿を見せ、鳴き声を響かせています。春の清水川では驚の姿も見られ、日々、鳥たちの美しい声を聞くことができます。

## 亀姫のはなし

徳川家康の娘で、加納城主奥平信昌の妻です。男勝りで気が強いことで有名ですが、現代に残る史料から、父家康を慕い、夫や子ども、孫など奥平の家と家族を大事にしていたことを察することができます。

本当はどうだったかのう...

## 亀姫うわさばなし

光国寺の裏に、「加納様の侍女、十二人一時に咎めた」という記録がある。詳細は分かってはいないが、乱心説などさまざまな憶測を呼んだ、衝撃的な事件であった。

## 亀姫うわさばなし

気性の強かったといわれる亀姫にちなみ、現在でも地元では、おてんば・おがまな女性を「カメヒメサマ」というらしい。

## 亀姫うわさばなし

確執のあった本多正純を陥れるため、正純が将軍暗殺を企てていると、事実無根の暗殺計画を洩らしたといわれている。これを守都宮城釣天井事件という。その後正純は配流された。

## 加納小学校の赤門(正門)

日本最古の小学校とされ、2012年には創立140年を迎えた加納小学校。赤門と呼ばれる正門は、岐阜の宝100選に選ばれています。

信昌・亀姫夫妻のお墓がある盛徳寺

加納城の「表鬼門」八幡神社 ※「裏鬼門」は加納高校の西にある猿田彦神社です。

加納公園のライオンにまたがった少年像 加納初代藩主奥平家の子孫が、先祖の偉業を偲び、日展作家小笠原安兵衛に依頼し作られました。

①～⑥ 裏面中山道コースマップをご覧ください

編集  
中山道加納宿文化保存会